

令和7年度全建賞 推 薦 調 書
異なる部門の事業が連携した取組の部(部門連携の部)

実施機関名（主事業の実施機関名）	国土交通省 近畿地方整備局 大和川河川事務所
実施機関名（連携先の実施機関名）	奈良県川西町
ふ り が な	やまとがわほたゆうすいちせいびじぎょう
1. 事業(施策)の名称	大和川保田遊水地整備事業
2. 事業(施策)実施期間(和暦)	平成29年4月1日～令和7年6月1日
災害枠で推薦の場合	(災害発生日) 年 月 日 (災害名)
3. 事業費(工事費)	約4,000百万円
4. キーワード	遊水地、上面利用、地域活性化、地域連携
5. 事業概要	大和川中流域では、5つの遊水地整備等を計画しているところ、令和7年6月に最初の遊水地である保田遊水地の運用を開始した。地域の治水安全度向上に貢献するとともに、平常時は川西町にて上面をインラインスピードスケート等が楽しめる施設として活用し、地域活性化にもつなげていく。

6. アピールする事業又は施策の「手段」と「秀でた成果」		
ハード or ソフトの分類 :該当する方に○印	① ハード面 に秀でた事業	② ソフト面 に秀でた取組
アピールする 1)「手段」	(a)維持管理を想定した遊水地の整備 (b)ポンプ車を活用したコンクリート打設 (c)ワトル改良剤を使用した軟弱地盤改良	(a)町・国合同の説明会の実施 (b)町主体の上面利用協議会の開催 (d)スピードスケート全国大会の開催 (f)治水施設の上面を活用した地域活性化
アピールする 2)「秀でた成果」	(a)限られた範囲での清掃となり、効率的な維持管理が可能 (b)人力では困難な箇所や施工時間の短縮 (c)コスト縮減・CO2削減	(a)戦後最大の被害をもたらした洪水と同規模の洪水に対して床上浸水を解消 (f)全国のスピードスケート選手が川西町を訪問

7. 特にアピールしたい点
大和川河川事務所では、本遊水地を含めた5遊水地等の整備を計画しており、それにより、大和川流域で戦後最大の被害をもたらした昭和57年8月の洪水と同規模の洪水に対して、周辺地域における床上浸水が解消される。今年度運用開始した保田遊水地は、大和川からの外水に加えて、付近を流れる保田川の内水も取り込むことで、地域の治水安全度を大きく向上させる。整備時には、遊水地に高低差をつけることによる維持管理の効率化や掘削に伴う発生土をワトル改良剤で改良した後、築堤材料として活用することで、コスト縮減やCO2削減を考慮した取組も行っている。 また、保田遊水地は治水安全度の向上に加え、その上面をインラインスピードスケート等が楽しめる施設「オーバルパーク川西」として川西町が活用することで、地域活性化にも貢献する。特徴として、全国唯一の国際規格に準拠したオーバルトラックが整備されていることがあげられ、令和7年4月には「全日本トラックレーススピード選手権大会」を保田遊水地で開催し、全国の選手が川西町を訪れ、国際大会への参加者を決めるレースも行われた。

面積：約7ha
 遊水地容量：約23万m³
 周囲堤：約740m
 囲繞堤：約300m
 越流堤：約37m
 越流堤敷高：TP+41.0m

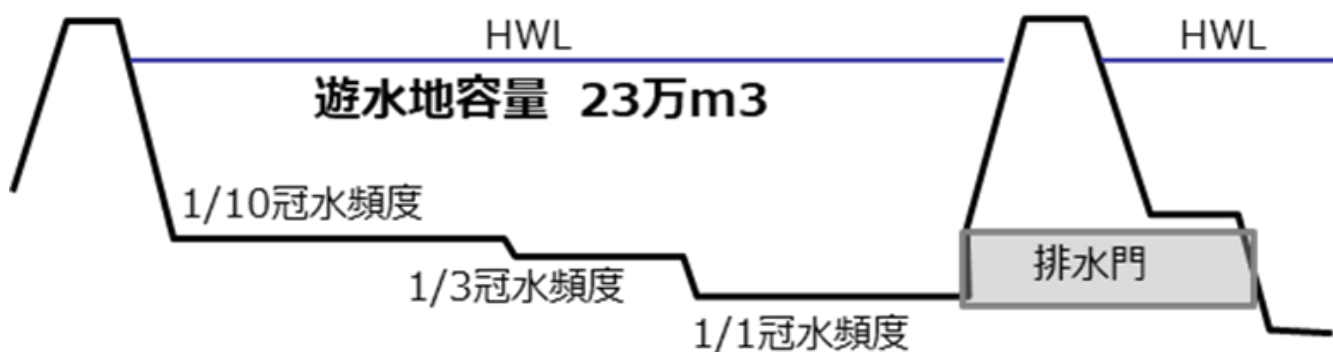


The diagrams show the facility's operation in four states:

- 1 平常時 (Normal):** The facility is in a dry state with a grassy field and a small pond. The main gate (閉門) is closed.
- 2 内水取込時 (Internal water intake):** Water is being pumped from the river into the facility's internal pond. The main gate (閉門) is open.
- 3 外水取込時 (External water intake):** Water is being pumped from the river into the facility's external pond. The main gate (閉門) is open.
- 4 排水時 (Drainage):** Water is being pumped from the facility's ponds back into the river. The main gate (閉門) is open.

保田遊水地は、大和川からの外水に加えて、付近を流れる保田川からの内水も取り込む構造となっており、洪水の各段階で、それぞれの樋門を操作し、適切に洪水を取り込む仕組みとなっている。

9. 事業内容・添付資料〔特徴を示す写真、諸元(位置図、標準断面図、施策のフローチャート、P Iの方法 等)〕



保田遊水地における維持管理および上面利用のための工夫

保田川からの内水は、1年に数回程度保田遊水地に流入することから、維持管理の観点で遊水地の高さに差異を設けて、冠水頻度をコントロールしている。これにより、高頻度の雨で流入する内水に対しては、限られた範囲の清掃のみですむため、効率的な維持管理が可能になる。

また、上面利用の観点では、冠水頻度 1/1 の箇所は清掃の必要性の低い駐車場、1/3 の箇所は普段は何も設置せず機材を持ち込んでイベントを行うためのイベントスペースとし、最も冠水頻度の低い箇所にインラインスピードスケートのためのオーバルトラックや芝生広場などを設置しており、洪水を取り込むこととなっても上面利用への影響が小さくなるように冠水頻度に応じて上面の利用方法を決定している。



全日本選手権にあわせて行われたオーバルトラックのオープニングセレモニーおよび選手による試走



全日本選手権の様子

令和7年4月には社会実験としてインラインスピードスケートの全日本選手権を開催。全国から選手が川西町を訪れた。大和川河川事務所長も出席し、保田遊水地の概要説明や、表彰状の授与を行った。

10. 連携した部門

連携した部門（主部門:◎、連携先部門:①～⑤）

道路	河川	都市	住宅	建築	港湾	漁港漁場	鉄道
	◎	①					

連携した部門に関する情報

	実施機関名	対象事業又は施策	対象事業又は施策の内容
①	川西町	上面の整備、占用	上面を平常時利用できるよう整備を行い、占用している。
②			
③			
④			
⑤			

11. 異なる部門の事業が連携した取組の概要

川西町は面積が 6km² 程度と小さく、保田遊水地の上面も貴重な地域活性化の資源であるため、町にて有識者や地元の自治会等をメンバーとした上面利用の協議会を立ち上げ、保田遊水地の上面利用の方針について議論した。

その結果オーバルトラックを核としたインラインスピードスケート等を楽しめる施設とする方針が決まり、保田遊水地の整備を実施している大和川河川事務所と連携して、川西町が上面利用に係る施設の整備を行った。

また、令和 7 年 4 月には上面利用の本格的な実施前の社会実験として「全日本トラックレーススピード選手権大会」を国と町で連携して開催し、保田遊水地の運用開始後は町が上面を占用して一般開放に向けた調整を行っている。

12. 各段階における連携の工夫・効果等

上面利用の内容を決定する段階では、町の上面利用協議会に事務所も参加し、保田遊水地の事業概要や占用のスキームなどを説明したほか、川西町に対して上面利用の案の提案やローラースポーツの関係者の紹介を行った。施工の段階では、国の工事と町の上面利用の整備が錯綜しないよう、定期的に関係者で打合せを行ったほか、令和 7 年 4 月の大会開催に向けて、大会に必要な整備を優先して行うために、行程を調整した。

令和 7 年の大会の開催にあたっては、工事中の遊水地での開催であったことから、安全対策や参加者の動線等を国と町で協議し、無事に大会を実施した。また、大和川河川事務所長より参加者に、保田遊水地の概要について説明することで、国の事業をより多くの方に周知するきっかけとした。

保田遊水地の運用開始にあたっては、川西町の地元の方も招いた運用開始の記念式典を開催し、川西町の協力の下、遊水地の記念式典とあわせて地元企業から川西町へのベンチの寄贈式を行い、遊水地の運用開始だけでなく上面利用についても参加者に知ってもらうことで、治水安全度の向上と地域活性化の両面で有用な施設であることを周知した。

現在、川西町は国内最大のローラースポーツ団体であるワールドスケートジャパンと連携協定を締結し、競技環境と施設の発展を連携して推進していく体制を整えている。あわせて、遊水地の一部をローラースポーツの大会開催等に活用している。

また、地域活性化企業人制度によりインラインスピードスケート日本代表選手を招へいし、魅力的な施設運営に向けた準備を進めている。国内唯一の国際規格施設に日本代表選手が常駐し、直接指導を受けられる付加価値の高い環境が整いつつある。

加えて、令和 8 年度には奈良県防災総合訓練の会場としての活用も進めている。多様な活用を通じて多くの人が訪れるきっかけをつくりながら、治水の仕組みや遊水地の役割を知ってもらう場となるよう取り組んでいる。